

14-36

2014年11月14日

報道関係各位

MSD株式会社

MSD株式会社
糖尿病治療に関する患者の意識と実態調査を実施
—糖尿病患者さんの4割以上が治療に協力してくれる身近な人がいない—

MSD株式会社（本社：東京都千代田区、社長：トニー・アルバレス）は、全国の40歳から60歳の2型糖尿病患者さんで、経口薬治療を継続している患者さん（治療継続者）と、過去に自己判断で治療を中断した経験がある患者さん（中断経験者）400名を対象に、糖尿病治療に関する患者の意識と実態を明らかにするための調査を実施しました。

今回の調査では、食事・運動療法に対して、負担と感じる患者さんは全体で約6割、薬物治療に対しても全体で約3割が負担と感じており、いずれも中断経験の方が負担と感じる割合が高い結果となりました。また医療関係者以外のサポートについては、治療継続者の約4割、中断経験者の約5割が「特にいない」と回答するなど、糖尿病治療におけるアンメットニーズが改めて浮き彫りとなりました。

MSDは、これまでも薬物治療に加え、食事療法や運動療法など糖尿病治療全般に関わる情報を提供してきました。今後も患者さんや医療従事者をはじめとする糖尿病治療に関わるすべての皆様に多角的なアプローチでソリューションを提供し、糖尿病領域における真のパートナーを目指していきます。

以 上

MSDについて

MSDは、すこやかな世界の実現を目指して努力を続けるグローバルヘルスケアリーダーです。医療用医薬品、ワクチン、バイオ医薬品およびアニマルヘルス製品の提供を通じてお客様と協力し、世界140カ国以上で事業を展開して革新的なヘルスケア・ソリューションを提供しています。また、さまざまなプログラムやパートナーシップを通じて、医療へのアクセスを推進する活動に積極的に取り組んでいます。MSDの詳細については、www.msd.co.jp をご参照ください。

<お問い合わせ先>

MSD株式会社 広報部門（山口）

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア

TEL : 03-6272-1001 FAX : 03-6238-9136

40代～60代の2型糖尿病患者400人に聞く

「糖尿病治療に関する患者の意識と実態調査」

調査結果概要

2型糖尿病は、治療を自己判断で中断することにより、病状が自覚がないまま進行し、失明や足の切断など深刻な症状につながる可能性が懸念されています。本調査では、経口薬治療を継続している患者さん(以下、治療継続者)、および過去に自己判断で経口薬治療を中断した経験がある患者さん(以下、中断経験者)を対象として、糖尿病治療に関する患者の意識と実態を調査した結果、以下のことが明らかとなりました。

食事・運動療法の遂行は糖尿病患者さんにとって負担と感じる。薬物療法では中断経験者でより負担を感じる。

P.4

中断経験者の約6割が「薬を飲み忘れることによる不安や罪悪感を感じる」と回答。

- ❖ 治療継続者も中断経験者も、食事・運動療法に負担を感じている(治療継続者59.3%、中断経験者82.0%)。治療薬の服用では、中断経験者の方がより負担を感じている(治療継続者21.3% < 中断経験者45.0%) と回答。
- ❖ 中断経験者は、89.0%が経口薬の飲み忘れの経験がある一方で、飲み忘れたときの不安感や罪悪感も治療継続者に比べ高い(継続者34.3% < 中断経験者58.0%)。

治療継続者の約7割が「薬物治療を計画通りできている」と回答し、中断経験者はその半数(35%)に留まる。「経口治療薬の飲み忘れ」は、中断経験者の約9割が経験ありと回答。

P.5

- ❖ 中断経験者は治療継続者に比べ、薬物治療においても治療計画遂行の実感が低い。
- ❖ 飲み忘れた理由として多かったのが、「うっかりしていた」「外出先、旅行先に薬を持参しなかった」「飲むタイミングを逸した」など。

治療継続者・中断経験者ともに、約4割以上が協力してくれる身近な人がいない。身近に治療をサポートしてくれるモノやサービスがあれば、約5割が頑張れると回答。

P.6

- ❖ 糖尿病と診断後、患者さんのほとんどが糖尿病について自分で調べている(治療継続者87.3%、中断経験者94.0%)。
- ❖ 治療に協力してくれる人は、医療関係者や家族・パートナー以外ではほとんどいないのが現実。治療継続者の約4割(39.7%)、中断経験者の約5割(49%)は協力してくれる人が「特にいない」と回答。
- ❖ 身近に治療をサポートしてくれるモノやサービスがあれば「治療を頑張れる」と半数以上が回答(治療継続者50.7% 中断経験者58.0%)。

「糖尿病治療に関する患者の意識と実態調査」調査概要

■調査目的:

糖尿病患者さんで、経口薬治療を継続している患者さんと、過去に自己判断で治療を中断した経験がある患者さんを対象に、糖尿病治療に関する患者さんの意識と実態を明らかにする

■調査対象:2型糖尿病患者 ※調査実施機関に登録している疾患パネルを使用

医師により2型糖尿病と診断された40-69歳の男女で、現在「経口治療薬」を服用中の人 400人

【内訳】

- ① 過去から継続して「経口治療薬」を服用中の人(以下、治療継続者) 300人
- ② 現在「経口治療薬」を服用中だが、自己の判断によって過去に2カ月以上の中断経験がある人(以下、中断経験者) 100人

本調査における「中断経験者」の考え方について

厚生労働省の研究班が、2014年5月の日本糖尿病学会において「糖尿病の治療中の患者のうち、年間8%の人が受診を中断している」という調査結果を発表した際に、2カ月以上の未受診者を「受診を中断している」と定義しています。

本調査の軸となる薬物療法においても、処方箋の交付には医師への受診が必要となるため、「2カ月以上治療薬の服用を自己判断によって中断した人」を中断経験者と解釈しています。

サンプリングについて

調査実施機関の登録者から、層化二段抽出にて配信対象者を抽出し2,395人から回答を得ました。このうち、調査対象者条件にあてはまる400人を有効回答として、調査を実施しました。なお、調査対象者の個人情報、調査実施機関のみに帰属しています。

■調査地域:全国

■調査手法:インターネット調査 (調査実施機関:楽天リサーチ)

■調査実施日:2014年10月24日(金)~10月27日(月)

糖尿病治療の負担と不安

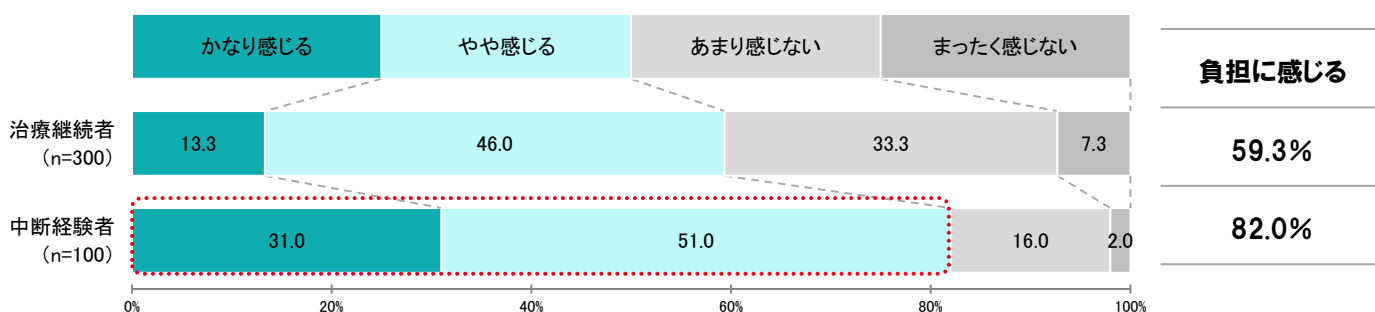
食事・運動療法の遂行は糖尿病患者さんにとって負担と感じる。

中断経験者の約6割が「薬を飲み忘れることに不安や罪悪感を感じる」と回答。

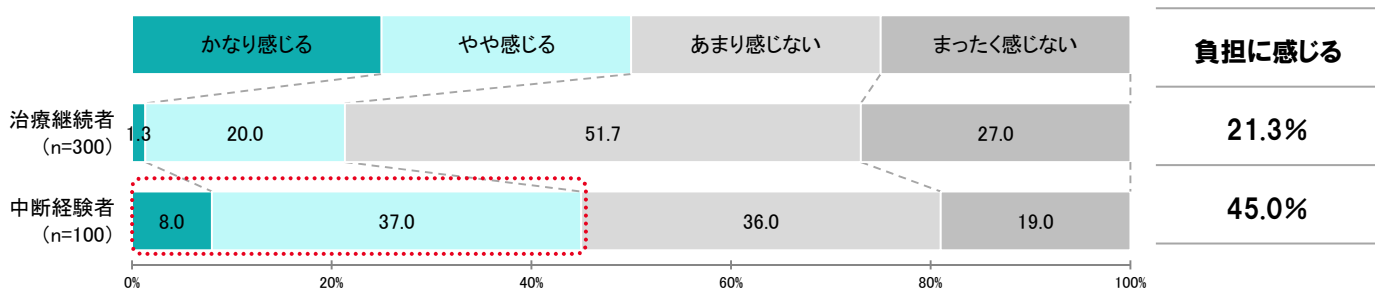
計画どおり実行するのが難しい食事療法や運動療法。これらの治療計画を守ることにに対してどのように感じていたかを聞くと、治療継続者でも半数以上が「負担」(59.3%)に感じたと答えており、中断経験者では8割以上が治療計画の遂行を「負担」(82.0%)に感じていました[図1-1]。同様に、現在遂行中の薬物療法についても、治療継続者の21.3%、中断経験者では約半数の45.0%が負担に感じると答えています[図1-2]。

経口治療薬を飲み忘れると「しまった」「まずい」などの不安感や罪悪感も感じており、中断経験者では58.0%と治療継続者(34.3%)より20ポイント以上不安を感じている割合が高くなっています[図2]。

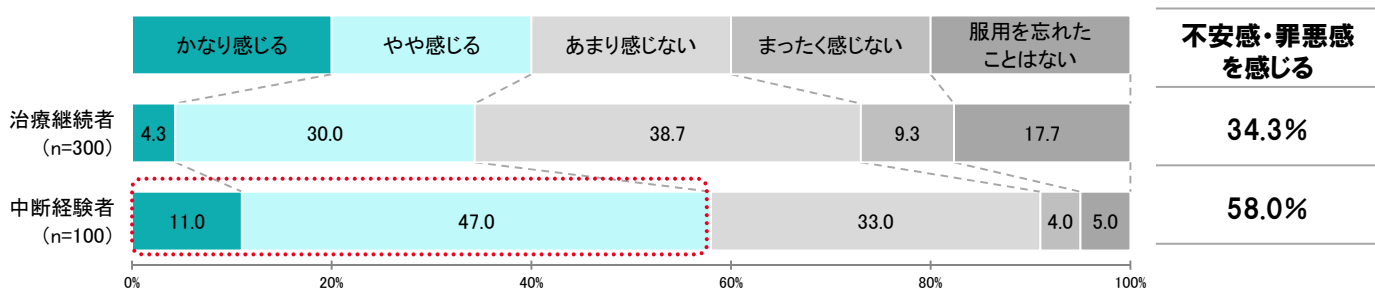
[図1-1]薬物療法以外の食事療法や運動療法の遂行に負担を感じるか



[図1-2]治療薬の服用を毎日/毎回守ることに対し負担を感じるか



[図2]経口治療薬を飲み忘れたときに不安感や罪悪感を感じるか



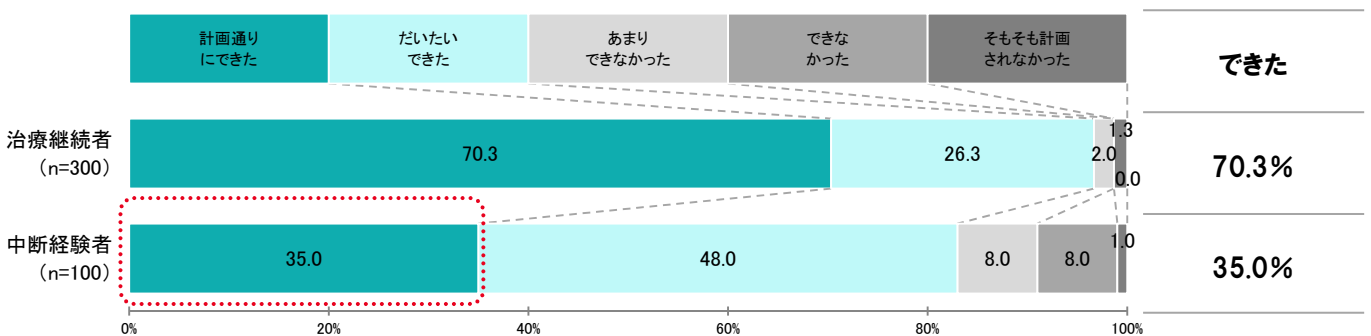
糖尿病治療の計画と遂行状況

治療継続者の約7割が「薬物療法を計画通りできている」と回答し、中断経験者はその半数に留まる。「経口治療薬の飲み忘れ」は、中断経験者の約9割が経験ありと回答。

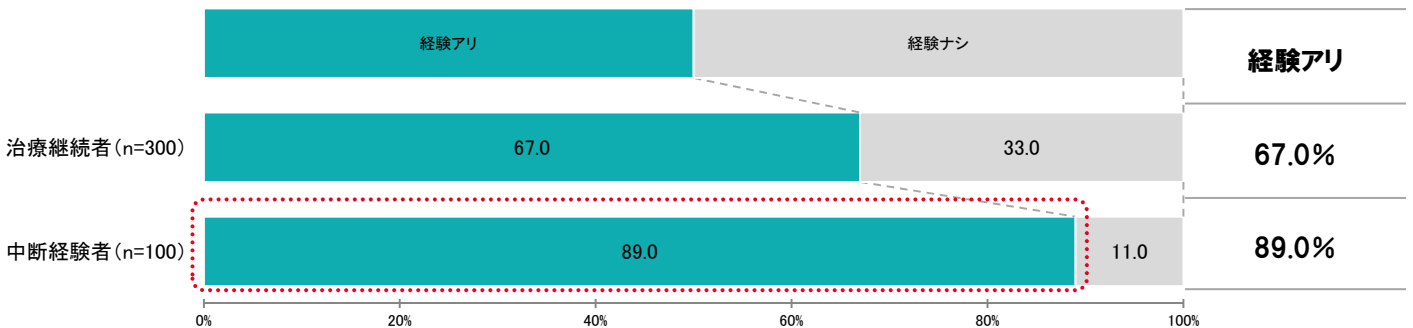
薬物治療の計画遂行実感を見てみると、治療継続者は「計画通りにできた」が70.3%に上っているのに対し、中断経験者では35.0%と約半数に留まっています。

また、同様の傾向は経口治療薬の飲み忘れ経験にも見られ、中断経験者では89.0%と約9割が「薬の飲み忘れ」を経験しています[図4-①]。飲み忘れの理由として多かったのが、「うっかりしていた」「外出先、旅行先に薬を持参しなかった」、「飲むタイミングを逸した」でした。中断経験者は治療継続者と比べて飲み忘れの理由が総じて高くなっています[図4-②]。

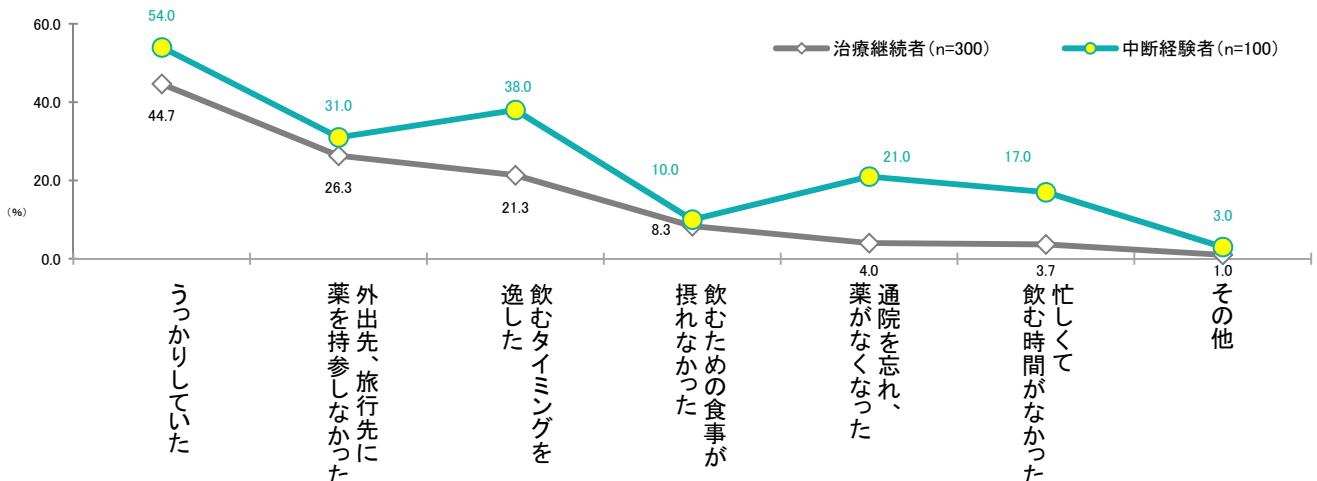
[図3] 糖尿病治療(薬物療法)の計画遂行実感



[図4-①] 経口治療薬を飲み忘れた経験



[図4-②] 経口治療薬を飲み忘れた理由(複数回答)



糖尿病治療と周囲のサポート

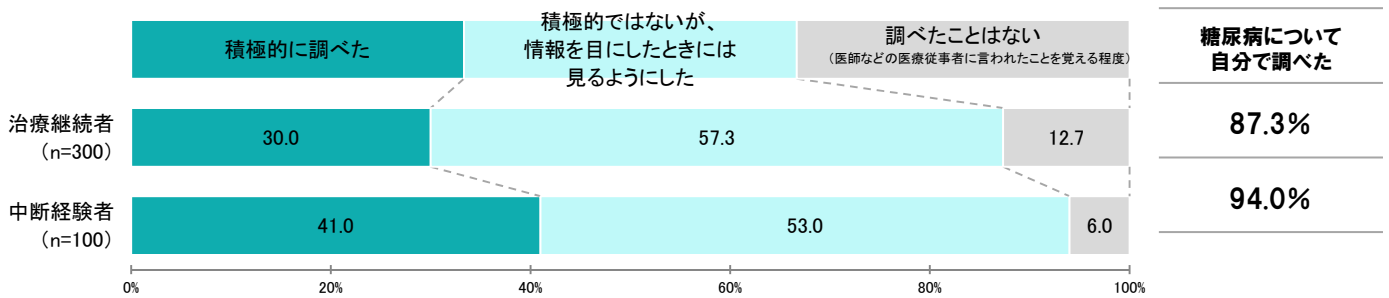
**治療継続者・中断経験者ともに、約4割以上が協力してくれる身近な人がいない。
身近に治療をサポートしてくれるモノやサービスがあれば、約5割が頑張れると回答。**

糖尿病と診断された後、病気について調べたか聞いたところ、治療継続者、中断経験者共に8割以上が糖尿病のことを自分で調べています[図5]。

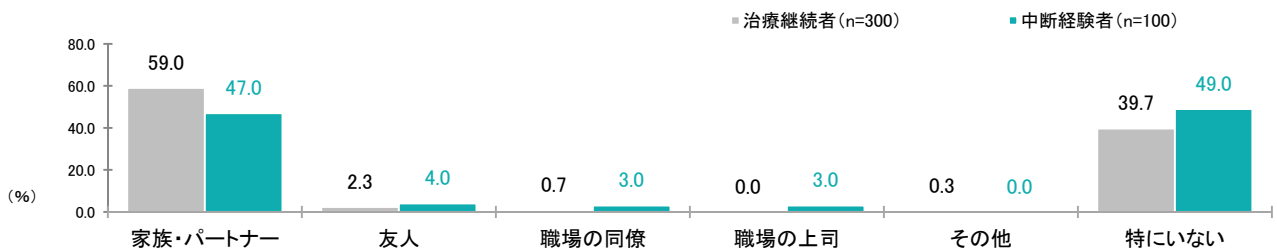
しかし、医師や医療関係者(薬剤師、看護師等)以外に治療に協力してくれる身近な人は、「家族・パートナー」(治療継続者59.0%、中断経験者47.0%)のほかはほとんどいないというのが現実で、治療継続者の約4割、中断経験者の約5割が協力してくれる人が「特にいない」と回答しています[図6]。

身近に治療をサポートしてくれるモノやサービスがあれば糖尿病の治療を頑張れると思うかと聞くと、半数以上が「頑張れると思う(非常にそう思う+そう思う 計)」と答えており、なかでも中断経験者は「非常にそう思う」(15.0%)が多く、約6割が「頑張れると思う」(58.0%)と答えています[図7]。

[図5]糖尿病と診断後、糖尿病について調べたか



[図6]医師や医療関係者(薬剤師、看護師等)以外に糖尿病治療に協力してくれる身近な人がいるか(複数回答)



[図7]身近に治療をサポートしてくれるモノやサービスがあれば糖尿病の治療を頑張れるか

